

第12回 道頓堀川水質調査結果

1. 試料採取

日時：平成19年5月11(土) 午前9時
 場所：道頓堀川流域の3地点 湊町リバープレイス付近(四ツ橋筋)、道頓堀橋(御堂筋)、日本橋(堺筋)
 天候：晴れ
 気温：18℃

2. 判定基準

1) 環境面：環境省「生活環境の保全に関する環境基準」

※ただし、道頓堀川(全域)は平成15年5月の大阪府の公告により、公共用水の水域ではB類への適合を達成目標とされているので、その基準に基づいて評価を行った。

表1. 生活環境の保全に関する環境基準(河川) 今回測定した項目

類型	AA	A	B	C	D	E
利用目的の適応性	水道1級 ^{※4} 、自然環境保全 ^{※3} 及びA以下の欄に掲げるもの	水道2級 ^{※4} 、水産1級 ^{※5} 、水浴及びB以下の欄に掲げるもの	水道3級 ^{※4} 、水産2級 ^{※5} 及びC以下の欄に掲げるもの	水産3級 ^{※5} 、工業用水1級 ^{※6} 及びD以下の欄に掲げるもの	工業用水2級 ^{※6} 、農業用水及びEの欄に掲げるもの	工業用水3級 ^{※6} 、環境保全 ^{※7}
水素イオン濃度 ^{※8} (pH)	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.0以上 8.5以下	6.0以上 8.5以下
生物化学的酸素要求量(BOD)	1mg/L以下	2mg/L以下	3mg/L以下	5mg/L以下	8mg/L以下	10mg/L以下
溶存酸素量(DO)	7.5mg/L以上	7.5mg/L以上	5mg/L以上	5mg/L以上	2mg/L以上	2mg/L以上
大腸菌群数	50MPN/ 100mL以下	1,000MPN/ 100mL以下	5,000MPN/ 100mL以下	—	—	—
浮遊物質(SS)	25mg/L以下	25mg/L以下	25mg/L以下	50mg/L以下	100mg/L以下	ごみ等の浮遊が認められないこと

※1 基準値は、日間平均値とする。(海域もこれに準ずる)

2 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする。

3 自然環境保全：自然探勝等の環境保全。

4 水道 1級：濾過等による簡易な浄水操作を行うもの。
 2級：沈殿濾過等による通常の浄水操作を行うもの。
 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの。

5 水産 1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用。
 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用。
 3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用。

6 工業用水 1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの。
 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの。
 3級：特殊な浄水操作を行うもの。

7 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において不快感を生じない限度。

8 pH(ピーエイチ、ペーハー)と水素イオン濃度とは次の関係がある。

$$\text{pH} = -\log_{10}[\text{水素イオン濃度}] \quad \text{pH} < 7 \text{ 酸性} \quad \text{pH} = 7 \text{ 中性} \quad \text{pH} > 7 \text{ アルカリ性}$$

2) 衛生面：厚生労働省「遊泳プール水質基準」

表2. 遊泳プール水質基準 今回測定した項目

項目	基準値
水素イオン濃度(pH)	5.8以上 8.6以下
大腸菌群数	検出されないこと
一般細菌	200CFU/mL以下
濁度	2度以下
過マンガン酸カリウム消費量(COD)	12mg/L以下
遊離残留塩素濃度	0.4mg/L以上 1.0mg/L以下

3. 測定結果および総合評価

今回測定を行った結果及び総合評価、解説を昨年度同時期に実施した結果と共に表3に示す。
 (昨年度測定日時 平成18年5月13(土) 午前9時 天候：雨 気温：17℃)

表3. 水質測定結果

項目	測定方法		日本分析化学専門学校 <small>の</small> 分析結果			総合評価	解説
			湊町 リバープレイス (四ツ橋筋)	道頓堀橋 (御堂筋)	日本橋 (堺筋)		
水温	アルコール温度計	今回	17.9℃	18.5℃	19.5℃	【環境面】基準なし 【衛生面】基準なし	昨年度同時期と比較し1～2℃上昇していた。参考データではあるが、水温の違いによる他のデータへの影響は大いに考えられる。
		昨年5月	16.8℃	17.5℃	17.5℃		
pH	pHメーター	今回	6.80	6.80	6.55	【環境面】 B類基準値：6.5～8.5 3地点共、基準値を満たしている。 【衛生面】 基準値：5.8～8.6 3地点共、基準値を満たしている。	pHが低いと浄水場での凝集処理の際、凝集効果が悪くなる。また、高いと塩素消毒による殺菌力が減少する。環境面・衛生面両方で基準を満たしている。
		昨年5月	5.99	6.10	6.60		
濁度	上水試験法 (透過光濁度)	今回	20	25	21	【環境面】基準なし 【衛生面】 基準値：2度以下 どの採水地点においても基準値を満たしていない。	環境面では基準はないが、衛生面では基準値を大幅に上回る結果となった。また、昨年度同時期と比較すると全地点で2倍以上に上昇した結果となった。当日道頓堀橋では、遊歩道の工事が継続されており、その振動から浮遊物が生じたとも考えられるが現時点においては衛生面から遊泳には不適といえる。
		昨年5月	9.3	8.2	7.4		
BOD	JIS K 0102	今回	2.21 mg/L	2.22 mg/L	6.55 mg/L	【環境面】 B類基準値：3mg/L以下 日本橋以外基準値を満たしている。 【衛生面】基準なし	BODとは、水中に存在する有機物が分解される間に消費される酸素量のことであり、値が高いほど汚染状況が激しいと言える。道頓堀橋以外では昨年度同時期に比べ増加しており、水温の上昇(1～2℃)が一つ原因と考えられる。
		昨年5月	-0.39 mg/L	3.24 mg/L	-0.46 mg/L		

項目	測定方法		日本分析化学専門学校の分析結果			総合評価	解説
			湊町 リバープレイス (四ツ橋筋)	道頓堀橋 (御堂筋)	日本橋 (堺筋)		
D O	JIS K 0102	今回	4.58 mg/L	4.73 mg/L	5.84 mg/L	【環境面】 B類基準値：5mg/L以上 日本橋のみ、基準値に達している。 【衛生面】 基準なし	DOとは溶存酸素といい、河川中に溶け込んだ酸素の量を表している。つまり、この値が低ければ低いほど、魚が住みにくく、嫌気性菌が繁殖しやすい環境といえる。昨年度同時期と比較すると、3地点共に上昇し、改善されている。
		昨年 5月	1.46 mg/L	1.00 mg/L	1.44 mg/L		
大腸 菌群	最確数法 (衛生試験法)	今回	230 MPN/100 mL	790 MPN/100 mL	2,200 MPN/100 mL	【環境面】 B類基準値：5,000MPN/100mL 以下 最確数法にて測定した結果、すべての地点において、B類の基準値を満たしていた。 【衛生面】 基準値：検出されないこと すべての地点において検出された。	環境面においてはすべての地点で基準を満たしていた。昨年の結果は、今年度を含めた過去3年間で最も悪く、雨天の影響であると考えられるので、今年度との比較対象としなかった。したがって、平成17年度(曇り)と比較した結果、今年度のほうが全体的に低い数値を示していたが、微生物の増殖に大きな影響を与える水温についても、今年度のほうが低いいため、水質が改善傾向にあるとは言いが切れない。また、衛生面では大腸菌の検出が見られたため、 <u>遊泳には不適</u> であるといえる。
		昨年 5月	54,000 MPN/100 mL	17,000 MPN/100 mL	4,900 MPN/100 mL		
一 般 細 菌	JIS K 0102	今回	260 CFU/mL	670 CFU/mL	210 CFU/mL	【環境面】 基準なし 【衛生面】 基準値：200CFU/mL 以下 すべての地点において、衛生面の基準を満たしていなかった。	環境面では基準はない。衛生面では、すべての地点で基準を満たしていないので、 <u>遊泳には不適</u> であるといえる。また、過去3年間の測定値と比較すると、前段の大腸菌と同様に、昨年度の結果は最も悪く、雨の影響と考えられる。したがって、平成17年度と比較した結果、今年度の値は、基準は満たしていないものの、大幅に改善されていることが分かる。しかし、これについても水温の影響を考慮すると、改善傾向にあるとは言いが切れない。
		昨年 5月	3,000 CFU/mL	2,400 CFU/mL	820 CFU/mL		

4. 総評

今回も前回に引き続き「生活環境の保全に関わる環境基準」及び「遊泳プール水質基準」に定められている項目について調査し、道頓堀川の環境汚染度を測るとともに、泳ぐことが可能な水質になっているかどうか比較検討しました。

今回の調査結果を「生活環境の保全に関わる環境基準」のB類に照らし合わせると、BODでは日本橋、DOでは湊町リバープレイスと道頓堀橋が基準を満たしていませんでした。

また、昨年度同時期(平成18年5月13日)と比較すると、環境面ではDO・一般細菌・大腸菌群のみ改善されています。しかし、昨年の同時期は、水温が1～2℃低く、雨天であり、今年度とサンプリング条件が異なっていたので、データを単純比較し、改善されたと判断する事は難しいと考えられます。

また「遊泳プール水質基準」に照らし合わせると、濁度・一般細菌・大腸菌の値が全地点で基準値を満たしていませんでした。したがって、昨年度との比較で改善されたとはいえ、大腸菌が検出されている以上、到底泳ぐには難しい環境と判断し、今後も引き続き調査を行って行きたいと考えております。